

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成23年7月号

編 集  
発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区一番町13-3

社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価 1部 150円 1カ年1,600円(送料共)

郵便振替 00190-5-396045

名 義 社団法人 日本病院会 通信教育部

## 自己犠牲と自己奉仕、そして情報管理

大里 俊明

医療法人医仁会 中村記念病院 診療部 部長  
北海道会場 基礎課程(臨床医学各論I) 講師

医療とは何か?これから診療情報管理士として医療にかかわる皆さんに想いを届けたい。

医師とは何か?私の勤務している中村記念病院は、脳神経疾患を中心に診療を行っている札幌市内の民間病院である。年間1万件の救急部患者受診数があり、3分の1程度は救急車による搬入、つまり1日10件以上の救急車が来ることになる。一度に何人もの救急患者さんを掛け持ちすることも珍しくない。その中に重症脳卒中、重症頭部外傷などが含まれれば修羅場である。緊急手術となる症例、治験の対象となる症例、臨床研究に協力して頂く方もあり、その都度医師の仕事は膨大にふくれあがる。これに加え外来症例、入院症例を受け持ちながらこれらの仕事をこなしていく。

これだけの仕事をこなすには多くの自己犠牲を払わなければならない。自己犠牲の多くは時間であり、その中には家族との時間も含まれる。また時には精神をも犠牲にすることもある。医師はこの犠牲の上に自己奉仕を成立させなければならない。医師が奉仕をすることで患者さんは改善のチャンスを得る。

奉仕は時に精神を捧げることも意味する。文字通り身も心もすりへらしての自己犠牲、自己奉仕なのだ。

ではなぜ医師を続けるのだろうか。割に合わないなら辞めてしまえばいいのだが、この自己犠牲、自己奉仕に対して医師は報酬を得る。当然金銭的な報酬もあるのだが、ここにも精神が宿る。患者さんがよくなる、ありがとうと言って退院していく、外来にニコニコして会いに来てくれる、これが精神の報酬である。我々医師はこれ以上ないようなうれしい想い、つまりは精神の報酬を受け取ることにより過酷な仕事を続けていけるのだ。

この想いを診療情報管理士になる皆さんと共有したい。今や情報はあらゆるツールを介して直接の会話なしで共有できる時代である。医療はそれでは成り立たないのは自明である。生きている人間が相手だからだ。我々医療に関わる者すべてが、じかに会話をしてこそ意味があるのだ。得られる情報を正しく管理、評価して、受け手に対し適切な判断の助けとする。正しく消化された情報が患者さんの改善につながるのだ。それが皆さんの担う役割だ。お互いがお互いの仕事を尊敬しあい、想いを共有することで、皆さんの精神にも宿るものがきっと見えてくるであろう。